

鹿ノ台川柳教室 六月度句会

六月十七日(月) 鹿ノ台西集会所

席題「追う」

澤山よう子選

カメラ増え逃げきれぬホシ逮捕劇 登美
 昼寝して極楽という老いを追う 宏樹
 わからない今の子供にうさぎ追い 充
 追いつけず昔話に泣く兎 幸男
 うさぎ追うなつかし歌を口づさむ 春代
 ふる里はウサギも小鮎いなくなり 乃り子
 父の日に追った父の背思い出し 英二
 父が逝く未だ追わないと母は言う 哲子
 追いかけていくほど逃げる目標値 よし尚
 この先も追い風頼み生きるため えいじ
 夢追う日二人で分けたカップ麺 アキラ
 追うものも追われるものも無い自由 広子
 知らぬまに闇が記憶を越してゆく 勝利
 庶民派は追われる方に力入れ ミノル
 秀理想を忘れ虚名追う研究者 千楽
 軸追いかけるから逃げてゆく青い鳥 よう子

宿題「声」(連記)

水間 充選

何事もまるく収める笑い声 幸男
 悩みごと声に出したらスツとする えいじ
 電話の向こう泣いてる様子気にかかる 春代
 補欠らも声張り上げて真っ黒け アキラ
 地獄耳ひそひそ声も皆聞こえ 登美
 声だけで美人と決めて申し込む 乃り子
 オレオレが私の身体金縛り 哲子
 幸せは地獄極楽天の声 宏樹
 ソプラノにテノール堂々と太り ミノル
 リスナーにぜんそく移す解説者 千楽
 受け止めてこだまが違ふことを言う 正清
 猫などで声気味悪そうに猫も逃げ 英二
 声色をいくつも持っているカケ子 よう子
 ウラ声で歌った友が今詩吟 よし尚
 透明人間つましい雄叫び ちさと
 怒鳴り声で悟る男の品格 広子
 秀トランプの声に株価が乱高下 勝利
 軸声の欄なるほどと読む年になる 充

宿題「もやもや」(互選)

②片足を上げて測ればダイエツト ちさと
 胸痛い告白もせず日が過ぎる 哲子
 平行線夫婦げんかの行く先は 春代
 友の助言心の不安ふっ飛んだ 春代
 言えばいいすつきりするよ胸の内 えいじ
 疑えばきりがないのでやめておく 広子
 ビットコイン相場は不明もややし 宏樹
 ③お小言の電波届かぬ場所にいる 正清
 もやもやに追い打ちかける梅雨の入り 充
 友とお茶もやもや晴れる元氣出る アキラ
 かなわんわはつきりせいよ京言葉 広子
 消臭剤撒いてオヤジを遠ざける 勝利
 ④もやもやと生きて人生分かった気 ミノル
 長生きをしたいか訊かれ口ごもる 英二
 ⑥もやもやが晴れてルンルン医者とハグ よし尚
 湯けむりが女の齡曇らせる 勝利
 クラス会顔も名前も霧の中 英二
 ⑦湯けむりのもやもやアラを皆かくす 登美
 ⑧もやもやを持つて帰れず縄のれん アキラ
 ⑨出てこない言葉気になる小半日 よう子
 秀⑩もやもやが晴れて虚しい孤独感 よう子

宿題自由吟(共選)

播本英二選

よく晴れたでも予定なし老い二人 よし尚
 魂と影は死ぬまでついてくる 登美
 暑すぎて鳴く時期まどう時鳥 充
 二千万足るも足りぬも暮らしよう よし尚
 アジサイの青が目染み恋と知る 広子
 文明が汚す地球のうめき声 勝利
 怪我病気快気祝いの暇もなし 幸男
 妻外出夫うきうきひきこもり 哲子
 選挙前それは言うなとつい本音 アキラ
 雨音にいやされ寝る夜もある 春代
 四季巡る風情惑わす温暖化 よう子
 いつか悔いる親を泣かせた一言を 春代
 母のよな母になろうと子を想う 広子
 秀世間体気にせぬ妻の軽やかさ 幸男
 軸父の日も何事もなくしまい風呂 英二

宿題自由吟(共選)

林 勝利選

選挙前それは言うなとつい本音 アキラ

もりもりと効き目がすごい試供品
よく晴れたでも予定なし老い二人
父の日も何事もなくしまい風呂
ずきずきと内角の和の正常値

ちさと
よし尚
英二
正清

六月十六日 題「挑む」
知っていて知らんぷりするチャレンジャー
チャレンジの心と態度食い違う

正清
幸男

世間体気にせぬ妻の軽やかさ
どしや降り止まぬ親が手を子は親を
魂と影は死ぬまでついてくる
雨音にいやされ寝いる夜もある
四季巡る風情惑わす温暖化
アジサイの青が目染み恋と知る
わだかまりゆつくり溶かすかき氷
梅雨の晴れ間五円拾った気分する
妄想をむき出しにする天守閣
秀貯金額知らぬ寿命が又延びる
軸右傾化の空気が背筋凍らせる

幸男
千楽
登美
春代
よう子
広子
よう子
英二
正清
アキラ
勝利

奈良新聞 居谷真理子選
五月二十二日 題「どんどん」
戦争を知らぬ国民増えてゆく
ブレーキが効かず進んでゆく迷路
駆け抜ける月日に歩幅追いつけず
遠慮なく飲めの言葉を真に受けて
どんどんと増える老人減る子供
五月二十九日 題「世間」
世間の目お陰で背筋ちよつと伸び
世間の口令和二文字でふたをする
世間話で上手く探りを入れてくる
世相切るコラム風刺に胸がすく

アキラ
正清
よう子
英二
幸男
英二
春代
アキラ
よう子

鹿ノ台川柳教室会員の新聞投句 掲載された句

(五月二十日～六月十六日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選

五月二十九日 題「わくわく」
今日というドラマ生み出す台所
御堂筋若い二人に短か過ぎ
六月五日 題「愉快」
反骨のコラムが見せる心地よさ
集まればすぐハモリ出す仲間です
軽口をたたける友と飲むお酒

よう子
アキラ
アキラ
よう子
義雄
アキラ

六月五日 題「親」
親の恩子に返してもまだ足りぬ
親のエゴ過度の期待に子の疲れ
子は知らぬ親また知らぬ子の心
六月十二日 題「あつさり」
あつさりがよいとしつこく繰り返す
情でくる頼み理屈で断れぬ
あつさりとこの世とさらば又来世
あつさりとして脳みその軽い技
アリバイをあつさり見抜く妻の勘

アキラ
よう子
幸男
英二
アキラ
春代
正清
よう子

毎日新聞 山田順啓選

五月二十三日 題「地図」
新任地仕事始めに地図を買う
世界地図拡げて示す戦闘地
地図帳の出番が減ってグーグルで
五月三十日 題「匂い」
安らぎを求め毎日香を焚く

アキラ
勝利
乃り子
幸男

奈良新聞 自由吟
六月十三日 米田恭昌選
ひらがなで話せば言葉のみ出す
五月晴れ俺の心は五月病
残すなど言われるほどもない遺産
曲がりくねった道ドローンの一息

よう子
幸男
アキラ
正清

読売新聞 阪本高士選

五月二十六日 題「知らせる」
報知器が鳴りつづけてる五月病
六月二日 題「うそ」
虚構の独立はるかなる逃げ水
六月九日 題「なじむ」
なじみ客えんまの前の大酒会

正清
正清
正清

次回 七月十五日、十二時十五分開場、西集会所
宿題は「登山」、「かねがね」、「自由吟」各二句
* 席題 義雄選 十二時三十分お題発表
* 「登山」(連記) 乃り子選
* 「かねがね」(互選)

* 橋正清、林勝利、前田幸男、三氏は各紙の短歌俳句でも活躍

* 自由吟(共選) アキラ選 哲子選
出句 〆 宿題・席題とも十三時

自治連合会公認クラブ。生駒番傘川柳会のご指導
を得て、日頃の生活を、喜怒哀樂を、五七五に
句会のご見学、ご入会大歓迎、会費一ヶ月百円

問合せ

原 広子(79・0061)

野々村詮(090・6961・1292)